中央公民館だより

平成 28 年 11 月 1 日発行
三原市中央公民館
三原市円一町２丁目３番１号
TEL 0848-64-2137　FAX 64-0137

地域コミュニティーの再生と公民館等の役割
～地域の未来を創るために～
（第 66 回広島県公民館大会参加報告）

人口の減少や少子・高齢化、価値観の変容や地域社会の変貌への対策・対応といった今日的課題は、公民館等地域の社会教育施設の機能や役割の根底的な見直しを迫ってきています。公民館等は、これまで地域の生涯学習の進展に大きな役割を担ってきましたが、これからは地域の拠点としての“地域コミュニティーの再生”に向けた新たな機能と役割が問われてきます。

今大会では、標記のテーマに基づき、公民館等の今後のあるべき姿が模索されました。

午前中は、尚絅学院大学　エクステンションセンター特任教授　松田　道雄　さんの「公民館を、次世代に継承される知恵づくりの拠点に！」と題する記念講演がありました。人口減少社会にあって今後の公民館活動においては、共助があちこち育まれることが重要であり、世代を越えた知恵を共有し住民の新たな活動を生み出す事業を!!と提言されました。

また午後の全体協議は、広島経済大学教授・広島県立生涯学習センター生涯学習推進マネージャー　志々田　まなみ　さんがコーディネートされました。二つの多世代にわたる実践事例報告を通して、１．地域の子どもたちに何を伝えるのか　２．地域・保護者をどう変えるのか　３．子どもたちのどんな遊び心をくすぐるのか　がポイント…地域にどんな課題がありどう解決していくのかを考える視点がこれからの活動には不可欠、という旨を訴えられました。

これまでの取組みを振り返り、これからの公民館のあるべき姿を考えさせられた内容でした。

11 月の体験講座

講座名	開催日時	対象	参加費	持参物	定員	申込期間
そば打ち体験 ―新そば打っていただきましょうー	11 月 6 日(日) 10:00～13:00	大人	1,600 円	エプロン、三角巾、タオル３枚、タッパー2 個	12 名	10 月 3 日 ～11 月 4 日
染めて紡いで編みましょう ～草木のやさしい色で染めて～	11 月 15 日(火)・18 日(金)・22 日(火) 9:30～12:00	大人	2,300 円	じゃがいも１個、さいばし	20 名	11 月 1 日 ～11 月 11 日
“三原築城 450 年”さきがけ講座② 小早川有力支族の本拠 “椋梨城”探訪	11 月 23 日(水) 9:30～12:00	大人	100 円	筆記用具、飲料、歩行できる服装・靴	20 名	11 月 1 日 ～11 月 21 日
“三原築城 450 年”さきがけ講座③ 毛利『中国行程記』 西国街道歩き旅(13km)	11 月 27 日(日) ※予備 12 月 4 日(日) 10:00～15:30	大人	100 円	筆記用具、弁当・飲料、歩行できる服装	20 名	11 月 1 日 ～11 月 24 日

体験講座へのお誘い（前記『11 月の体験講座』参照）

“三原築城 450 年”さきがけ講座②③

中央公民館では、来年の三原築城 450 年に先がけて標記の講座を開設しています。小早川関連史跡を実際に訪ね、ご自分の目で三原固有の歴史の痕跡を確認し、当時の人々の息づかいに思いを馳せることを通して、さらに郷土に対する愛着を深めていただくのがねらいです。

昨年度は、小早川家の菩提寺である米山寺を訪ね、隆景 45 年間の居城新高山城跡に登山しました。また、今年度は、6 月に小早川 350 年間の居城であった高山城跡に登山しました。

そして、この 11 月には、沼田新庄の経営にあたった椋梨氏の居城“椋梨城”跡周辺を探索したり、萩藩の街道絵図『中国行程記』を基に三原城下から本郷宿までの街道旅に出たりする計画を立てています。

“百聞は一見にしかず”…あなたもご一緒に地元を再発見してみませんか。

椋梨(堀)城跡縄張図
（山根光博氏作成）

染めて紡いで編みましょう
～草木のやさしい色で染めて～

化学繊維万能の現代にあって、自然が育んだ体にやさしい身近な素材（動植物）を活用して伝統的な草木染に挑戦し、染め・紡ぎ・編みの一連の工程を体験します。

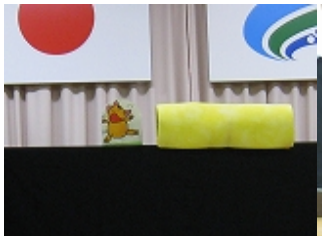
今回使用する繊維は羊毛。身の周りの草木で染めて手で紡ぎ、指で編み、オンリーワンのマフラーに仕上げます。

ただ単に手作りの楽しさを味わうだけでなく、自然との関わり方を見直すきっかけにしたいと思います。是非ご参加ください。

手で紡ぐ工程

人形劇創造講座卒業劇団による公演報告 in 三原市立南幼稚園

昨年度主催講座「人形劇創造講座」で立ち上がった劇団【ドロップス】の出前公演が 10 月 11 日に三原市立南幼稚園でありました。【人形劇団ドロップス】の出前公演は 3 回目で、当日は園の 10 月のお誕生日会でした。お誕生日の子どもは自分の好きな食べ物や将来なりたい夢を話したり、皆からの質問に答えたりしながら、本人も自分自身の生まれた季節の様子を理解しました。また、お祝いする子ども達はお誕生月のお友達の興味のあることや好きな物を知りこれからもっと仲良くしようね！という言葉が行き交うあたたかいお祝いの会でした。その後、【ドロップス】が「へんしんトンネル」と「まじょのくつ」を上演しました。



編集後記　　読書の秋におすすめの一冊「銀二貫」

冒頭、仇討のシーンから始まります。父を目の前で亡くしたその息子まで手をかけようとする待ったなしの場面です。「そこらで堪忍したっておくんなはれ」と柔らかな浪花言葉で、大阪天満の寒天問屋の主人、和助がその場を止めます。和助が、茶屋で大好物の丁稚羊羹をほおばった瞬間、目の前で事が起こります。和助はその仇討を「銀二貫」で買い取ります。そして、お侍の子を丁稚として店に迎えます。物語は、義理と人情に厚い浪花商人の生き様を描いています。情に厚い主人和助と、しっかり者の番頭善次郎との浪花言葉のポンポンとしたやりとりも絶妙です。舞台となる寒天問屋の家訓は、「始末、才覚、神信心」で、「人の見ていないところでも、お天照さんは見てはる、恥かしゅうない生き方せなあかん！」と、侍の子は厳しい躾と生活に耐え自らを律して一人前の商人に育てて貰った恩を感じとります。読み終えた時、すがすがしさを感じ、日々の自分を省みて「どないかせなあかん！」と思う事頻りでした。先日台風の日に、通学のバスに乗り遅れた近所の中学生が必至で小走りに学校に向かっています。バスは 1 時間に 1 本しかありません。諸般の事情や、数分前の親子の会話が予想されます。心を鬼にした母の厳しい愛情に対し、「乗って行きんさい」車で通りかかった私はつい助け船を出してしまいました。後で謝っておきましょう。

お問い合わせ・ご相談は、三原市中央公民館(TEL0848-64-2137　FAX64-0137)　生涯学習相談員　中山・村上まで